

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 植水 小学校） 学校番号 061

【様式】

目指す学校像	安心・安全な環境のもと、すべての植水っ子が輝き、よりよく成長できる学校
重点目標	1 学習の楽しさを感じながら、主体的に課題を解決する植水っ子の育成 2 すべての植水っ子が、のびのび・活発に活動できる環境の確保及びその維持 3 コミュニティスクール制度を核とした「地域・保護者・学校」の連携強化 4 常に学ぶ意欲をもち、仲間と磨き合うことができる職員の育成

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・詳細等	
1	【現状】 ○どのクラスも、子どもたちは落ち着いた環境の中で日々授業に取り組んでいる。 ○「R05 年度「さいたま市学力学習状況調査」平均正答率→3年～5年:「国語」→▼ 「算数」→▼ (▼:市の平均をマイナス3pt以下下回っている) 【課題】 ○学力の基礎的・基本的事項が確実に身につけていない子どもも多々見られる。 ○既習事項の確実な定着がなされていない。 ○「読解力」の向上のために、「母語(日本語)」についての知識(主語・述語、文法など)を身に付けさせなければならない。	・学習にふさわしい環境の整備 ・学力の基礎的・基本的事項の確実な定着	①学習前に、身の回りの整理整頓(机や椅子、ごみが落ちていないかななどの確認) ②正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方、丁寧な文字を書くことの徹底 ①子どもの現状を考慮した朝学習の実施→未定着箇所を重点的に ②既習事項(前年度以前に学習したことも含めて)の確実な定着のために繰り返し課題に取り組む ③日本語と外国語(G.S.など)を比較させることで、互いに似ている・異なる箇所に気づかせることで日本語の知識を深めさせる	○学校評価(児童)アンケート「学習」項目について、肯定的回答90%以上 ○「R06 さいたま市学力学習状況調査」平均正答率→3年～6年:「国語」→○ 「算数」→○ (○:市の平均を0pt以上3pt未満上回っている)					
2	【現状】 ○どの子どもも毎日元気、明るく生活することができている。 ○各クラスでは、思ったことや考えたことなど何でも言い合える雰囲気醸成されている。 ○全職員で事故や問題を「未然に防ぐ」 【課題】 ○学校に苦手意識をもつ子どももいる。 ○「目標」→「計画」→「実行」→「充実感/達成感」の流れを多く経験させる→自分に自信をもたせるために ○学校内での事故・ケガの件数→R05年度の保健室対応852件	・不登校件数の削減 ・いじめの未然防止及び早期発見、早期解決の徹底 ・学校施設の瑕疵による事故を未然に防ぐ ・子どもの事故・ケガの件数の削減	①登校渋りや連続して休む子どもについて、即校内で情報を共有し対応について話し合い保護者に連絡する ②学校生活全般(特に授業中に)で、互いを認め互いの考えを尊重する機会を設ける ③教師と子どものふれあいの時間を確保する(会議/行事などの精選)→互いの信頼関係を強固に ④生徒指導主任を中心に、生徒指導課題に即対応を徹底する ⑤毎月の生徒指導・教育相談部会で「いじめ・不登校」の現状を確認する。 ①毎月1回の施設の安全点検(体育施設は月2回)→子どもの目線で叩いてゆずって 一要修繕箇所があった場合には即修繕を徹底する ②教科主任(体/図/家)による事故・ケガ防止のための研修を実施する ③学校全体で、安全な過ごし方について声掛けを徹底する(廊下歩行など)	○学校評価(児童)アンケート「学校は楽しい」項目について、肯定的回答90%以上 ○不登校件数昨年度比30%減 ○施設の瑕疵による事故 ゼロ ○学校内での事故・ケガ件数30%減					
3	【現状】 ○小中合同で「コミュニティ・スクール」を行っている。→熟議の結果、地域の特色を生かした地域連携事業を推進している(R05「防災フェア」の開催)。 ○「植水地区運動会」「青少年子どもまつり」、各地区の夏祭りなど多くの地域行事が行われており、多くの子どもたちが参加している。 【課題】 ○地域で目指す児童像について、積極的に発信して共有していかなければならない。	・子どもたちをよりよく変容させることで、地域・家庭からの学校に対する「信頼」を勝ち取る ・地域・家庭・学校が子どもたちの成長をあたたく見守る体制づくり	①基本的な生活習慣(挨拶、清掃、給食など)を徹底させる→「当たり前」のことは当たり前に行える子どもの育成 ②学力の基礎的・基本的事項の確実な定着 ①毎日学校 HP の更新→家庭での話題づくりの一環として ②地域行事への積極的参加(教職員/子ども)	○学校評価(保護者)アンケート「明るく開かれた学校」項目について、肯定的回答90%以上 ○学校評価(保護者)アンケート「地域協働」項目について、肯定的回答90%以上					
4	【現状】 ○日々、何でも言える職場環境の中、子どものよりよい変容のために職員同士協力しながら職務に励んでいる。 【課題】 ○日々の業務に追われ、教師としての資質を高めるための自己研鑽に励むことが難しい	・全職員が生き生きと自己の教師としての資質を高めながら、自分の職務に励む	①職場では、何でも言える環境を常に維持する ②研修受講奨励キャリア navi の活用→研修内容の共有(端末に研鑽フォルダ) ③子どものよりよい変容のために提案ができる職員の育成→気付いたことは互いに声掛け	○学校評価(教職員)アンケート「働きやすい職場」項目について、肯定的回答90%以上 ○研修などで学んだ成果を「研鑽フォルダ」に入れ、全職員で共有 ○職員の病休者ゼロ					